

がん検診に寿命を延ばす効果なし

がん検診は寿命延長のために推進されているが、現在実施されている代表的ながんスクリーニング検査で寿命が延びているのかについて検討した。

追跡期間が9年以上のがん検診に関するランダム化比較試験をMEDLINE およびコクランライブラリーより抽出し、全死亡や寿命の延長に対する効果についてメタ解析を行った。がん検診は、乳がんマンモグラフィー、大腸内視鏡検査、S状結腸内視鏡検査、便潜血検査、現喫煙者と元喫煙者の胸部CT検査、前立腺がんの特異抗原検査（以下、PSA検査）の6種を対象とした。対象者は2,111,958例、追跡期間の中央値は、胸部CT検査、PSA検査、大腸内視鏡検査で10年、マンモグラフィで13年、S状結腸内視鏡検査と便潜血検査で15年であった。解析の結果、S状結腸内視鏡検査でのみ、有意な寿命延長（110日）が認められた。マンモグラフィ（0日）、前立腺がん検診（37日）、大腸がん検診（37日）、便潜血（11日）、肺がん検診（107日）では有意な結果はみられなかった。

したがって、S状結腸内視鏡検査による大腸がん検診以外のがん検診は、それを受けても寿命は延長しないことが示された。

出典：Journal of the American Medical Association. Internal Medicine. 2023 Aug 28; e233798.